Vol.24　色々なコード・ヴォイシングを弾いてみる

『10 分トレ』vol.24、始めていきましょう。

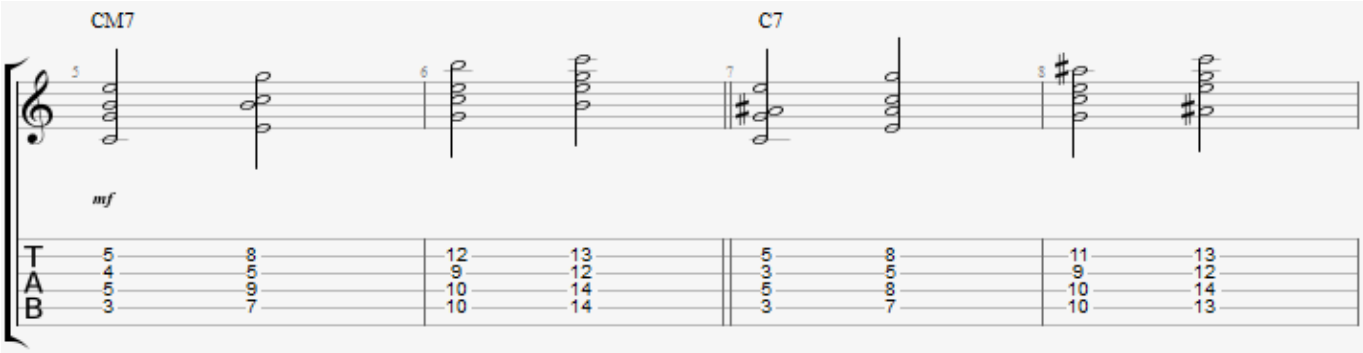
今回から数回に渡って、少し特殊なコード・ヴォイシングを覚えていきます。

これもおそらく、普通にギターを弾いていたら、専門的にギターを学んでいる人以外は、一生、押さえる事の無いヴォイシングかもしれません。

この手のパターンも、やろうと思えば相当な量を導き出すことができますが、とりあえず、ダイアトニックコードとして出てくる、XM7、X7、Xm7、Xm7(♭5)の 4 種をやって行きたいと思います。

で、この内、今回やるのはメジャー系の 2 つ(の 5 弦ルート)ですね。

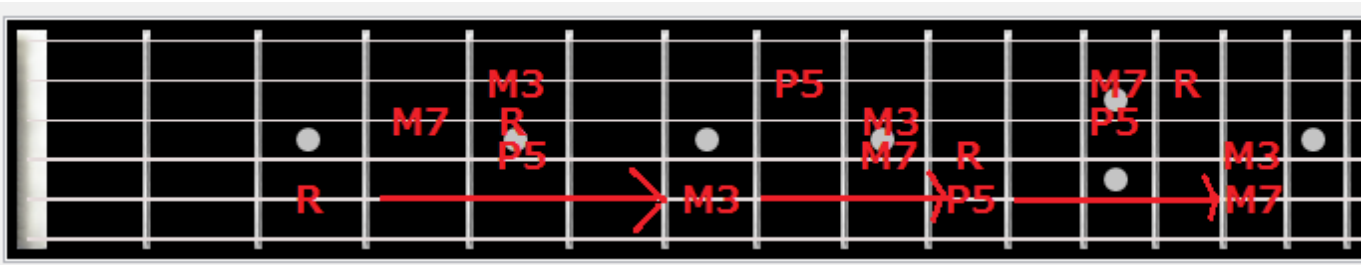
それでは早速ですが、譜例はこちらです。



さて、例としては、CM7 と C7 の 2 つのコードが出てきて、それぞれ 4 種類ずつ、異なった押さえ方が載せてありますね。

一見、関連性がなさそうに見えるこれらのヴォイシングですが、実は、構造としては最初に押さえたヴォイシングの構成音から、各弦ごとに次の構成音まで飛んでるのですね。

例えば、CM7 側の 4 種を図で見るとこうなっています。



図に示した通り、5 弦で言うと、3 フレットの C 音(root)から、⇒E 音(M3rd)⇒G 音(P5th)⇒B 音(M7th)と、順番に進んでいます。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

同じ様に、他の弦でも始まった音から順に、構成音のループが進みます。

コードネームは、譜例では一つに統合してありますが、実際は各ヴォイシングでルート(最低音)が動いていますね。

なので例えば、CM7 側の 4 種に細かく名前を振った場合、

CM7、CM7/E、CM7/G、CM7/B(※もしくは C/B)

と言った感じになります。(※モノによっては他の解釈が出来る場合もあります)

これらのヴォイシングをこのまま鳴らすことは、実はあまりないのですが、オンコード(XonX の形)や分数コード(X/X の形)の一つとして見れる事は大事ですし、最終的に、ギターと言う楽器のハーモニー感覚 UP に繋がって来るので、覚えておいて下さい。

もちろん、そのまま使ってはいけないわけでは無いので、好きな響きのものがあったら、楽曲などで試してみましょう。

所謂、「代表的なコードフォーム」とは少し違った味が出ますので。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

P.S.

僕の一連のテキストでは、オンコードと分数コードは、ほぼ同じものの様に扱っていますが、厳密には違うものです。

とは言え、同じものの様に扱われていることも多々あり、その時々で判断することになりますね。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved